

平成15年度 事業報告書



株主メモ

決算期	毎年3月31日
定時株主総会	毎年6月
利益配当金支払株主確定日	毎年3月31日
中間配当金支払株主確定日	毎年9月30日
基準日	毎年3月31日 (そのほか必要があるときはあらかじめ公告いたします。)
公告掲載新聞	日本経済新聞
名義書換代理人	中央三井信託銀行株式会社
同事務取扱所	〒168-0063 東京都杉並区和泉2丁目8番4号 中央三井信託銀行株式会社 証券代行部 TEL 03 (3323) 7111 (代表)
同取次所	中央三井信託銀行株式会社 全国各支店 日本証券代行株式会社本支店
1単元の株式数	1,000株

世界の技術光源になる。

ICHIKOH

市光工業株式会社 〒141-8627東京都品川区東五反田5丁目10番18号 TEL.03-3443-7281 FAX.03-3443-7233 URL : <http://www.ichikoh.com/>

平成15年4月1日から平成16年3月31日まで



目次

株主の皆さまへ	1
ICHIKOH WORKS	2
財務ハイライト	3
連結決算概要	4
単独決算概要	6
Topics	8
Driving Manner	10
株式の状況	12
会社概要	13

株主の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。ここに当社グループ平成15年度の営業の概況等をご報告申し上げます。

当期におけるわが国経済は、依然として雇用環境の冷え込みが続くなど不安材料を払拭できない面があるものの、中国及び米国向けを中心とした輸出、及び民間設備投資の増加により緩やかな回復基調を示しました。

海外におきましては、米国では減税等を柱とした景気刺激策が効を奏し回復傾向を維持しており、一方欧州においては本格的な回復には至らないままに終始いたしました。

自動車業界におきましては、生産台数は前年比0.3%増の1,035万台となりました。輸出の面では、現地生産の増加により北米向けの輸出は減少したものの、アジア向けを中心に続伸し、加えて国内販売の堅調さに支えられたことによるものであります。

このような環境のもと、当社グループは売上高の拡大、新規事業分野の開発促進、グループ全社を挙げての合理化への取り組みなど激変する内外の情勢にスピーディーな対応で取り組んでまいりました。

その結果、当期の連結売上状況その他の営業概況は次のとおりであります。

当社グループ主力の自動車部品関連の売上高は115,273百万円で、自動車関連以外の部門におきましては3,418百万円となりました。

上記により、当期の連結売上高は118,691百万円となり、収益面につきましては連結経常利益は33百万円、また連結当期純利益は423百万円をそれぞれ計上することができました。

今後の景気の見通しにつきましては、厳しい雇用・所得環境下にあるものの個人消費に持ち直しの動きがみられること、及び民間設備投資においては特に製造業の調整が一段落し増加傾向にあること等からみて、緩やかな回復傾向が持続するものと予想されます。

自動車業界を取り巻く環境は、海外現地への生産体制シフトがより一層進捗することによりグローバル競争の激化が予測され、また、国内販売も大幅な伸びが期待できない等、厳しい環境が持続するものと思われれます。

当社グループはこのような情勢のもと、専門メーカーとして開発力、技術力、製品に関する全ての責任保証体制の確立、無欠点製品の納入、世界各拠点に対応した供給体制と併せて開発体制の整備に一層推進していく所存であります。

以上により平成17年3月期の連結決算見通しにつきましては、連結売上高118,000百万円、連結経常利益1,800百万円、連結当期純利益は900百万円を予定しております。

株主の皆様におかれましては、今後ともより一層のご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成16年6月

代表取締役社長 市川 侑男

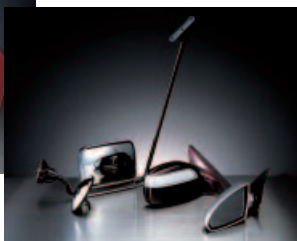


当社は、国内全ての主要メーカーはもちろん、米国ビックスリーなど海外の主要なメーカーと取引実績を持ち、車の歴史とともに歩んでまいりました。初代のダットサンにランプ装着以来、これまでに柔軟な発想力と確かな開発力、世界に広がる多彩なグループパワーで世界初、日本初となる技術をつつと生み出し、現在も旺盛なパイオニア精神で、自動車分野にとどまらず幅広い分野で魅力に富んだ製品を次々と創造しています。

Products in production



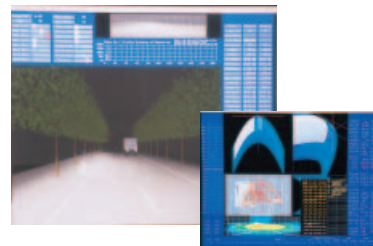
それぞれのクルマのデザインに合わせ、常にベストの安全を提供し続けており、その技術力の確かさは、国内、国外の自動車メーカーからの高い評価と信頼に表れています。



Products under development

より高度な安全を、斬新で柔軟な発想で追求し続け、ステアリングに連動する話題のAFSヘッドランプシステムや、LEDランプをはじめ、眩しさを防ぐ自動防眩ミラーなど、車の新たな安全装置を創り続けています。

Simulation technology



最新のフリーサーフェイスヘッドランプやHIDヘッドランプは全てこのシステムから生み出されています。本システムの精密な配光シミュレーションやモニター上の3Dモデルなどにより、試作品を作らなくても精度の高い初期検討が可能となり、開発コストが大幅に削減できています。



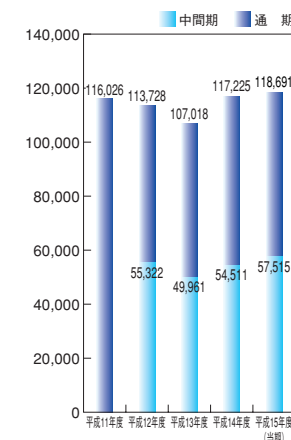
Automotive accessories

クルマは、安全だけでなく楽しいモノであること。それが当社のオプションパーツの基本です。マルチリフレックスランプ、HIDランプ、運転中の後方視界を確実にキャッチする大型ミラーやリアアンダーミラーなど、各パーツともセーフティとドライビングプレジャーが高次元で調和しています。

連結財務ハイライト

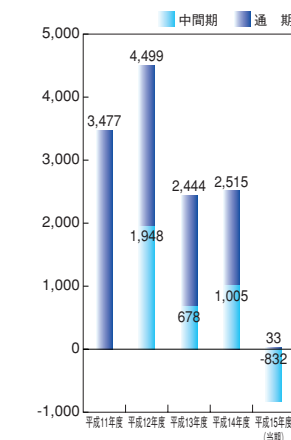
売上高

(単位：百万円)



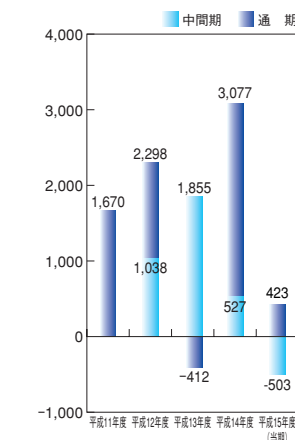
経常利益

(単位：百万円)



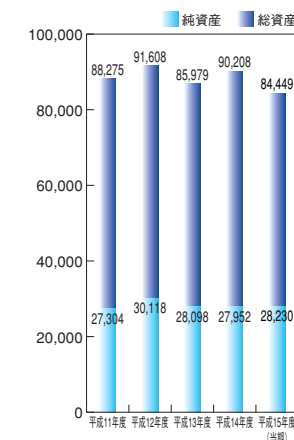
当期純利益

(単位：百万円)



総資産・純資産

(単位：百万円)

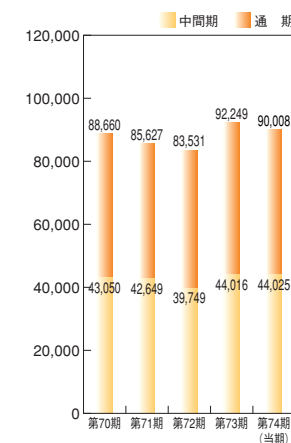


※当社は平成12年度より中間連結会計期間の数値を算出しております。

単独財務ハイライト

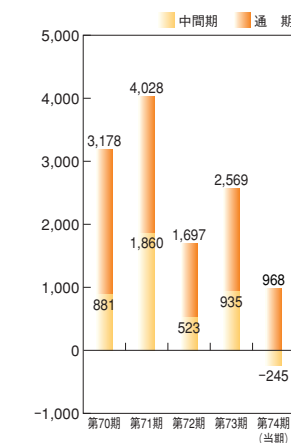
売上高

(単位：百万円)



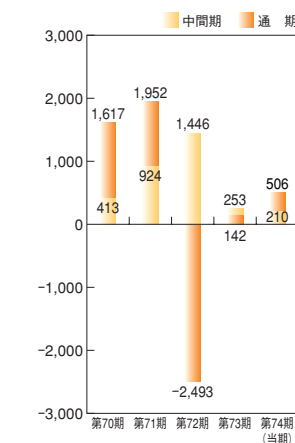
経常利益

(単位：百万円)



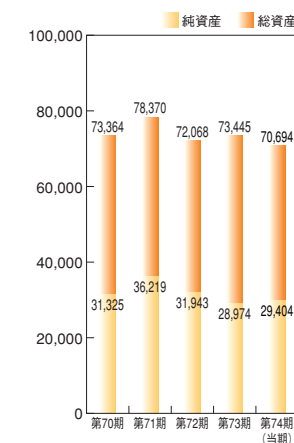
当期純利益

(単位：百万円)



総資産・純資産

(単位：百万円)



連結決算概要

連結貸借対照表 (要旨)

(単位：百万円)

科 目	当連結会計年度末 平成16年3月31日現在	前連結会計年度末 平成15年3月31日現在	科 目	当連結会計年度末 平成16年3月31日現在	前連結会計年度末 平成15年3月31日現在
資 産 の 部			負 債 の 部		
流 動 資 産	43,762	53,711	流 動 負 債	37,560	42,478
現金及び預金	5,959	15,301	支払手形及び買掛金	20,079	23,462
受取手形及び売掛金	22,662	22,209	短期借入金	5,541	4,946
有価証券	422	69	1年以内返済予定の長期借入金	3,174	3,624
たな卸資産	8,921	9,141	1年以内償還予定の社債	80	—
繰延税金資産	1,244	1,235	未払金	917	567
その他	4,642	5,841	未払法人税等	1,828	2,869
貸倒引当金	△ 90	△ 89	未払費用	2,935	3,259
固 定 資 産	40,686	36,497	製品保証引当金	510	618
有形固定資産	26,070	25,700	繰延税金負債	—	39
建物及び構築物	7,406	7,310	その他	2,492	3,091
機械装置及び運搬具	6,532	7,066	固 定 負 債	17,228	18,738
工具器具及び備品	2,677	2,591	社債	1,265	961
土地	6,036	6,066	長期借入金	5,394	8,654
建設仮勘定	3,416	2,665	繰延税金負債	24	—
無形固定資産	207	291	退職給付引当金	8,273	6,713
投資その他の資産	14,408	10,505	役員退任慰労引当金	221	297
投資有価証券	9,353	5,988	連結調整勘定	18	32
長期貸付金	31	98	その他	2,030	2,078
繰延税金資産	3,219	2,895	負 債 合 計	54,789	61,216
その他	2,018	1,623	少 数 株 主 持 分	1,429	1,039
貸倒引当金	△ 213	△ 100	資 本 の 部		
資 産 合 計	84,449	90,208	資本金	8,929	8,929
			資本剰余金	7,840	7,840
			利益剰余金	13,419	13,623
			その他有価証券評価差額金	504	△ 68
			為替換算調整勘定	△ 2,453	△ 2,366
			自己株式	△ 9	△ 6
			資 本 合 計	28,230	27,952
			負債、少数株主持分及び資本合計	84,449	90,208

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

連結損益計算書 (要旨)

(単位：百万円)

科 目	当連結会計期間 平成15年4月1日から 平成16年3月31日まで	前連結会計期間 平成14年4月1日から 平成15年3月31日まで
売 上 高	118,691	117,225
売上原価	101,873	98,222
販売費及び一般管理費	16,973	16,910
営 業 利 益	△ 155	2,093
営業外収益	1,403	1,739
営業外費用	1,214	1,316
経 常 利 益	33	2,515
特別利益	2,194	4,839
特別損失	419	2,087
税 金 等 調 整 前 当 期 純 利 益	1,809	5,267
法人税、住民税及び事業税	1,966	2,735
法人税等調整額	△ 738	△ 634
少数株主利益	158	88
当 期 純 利 益	423	3,077

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

連結剰余金計算書 (要旨)

(単位：百万円)

科 目	当連結会計期間 平成15年4月1日から 平成16年3月31日まで	前連結会計期間 平成14年4月1日から 平成15年3月31日まで
(資本剰余金の部)		
資本剰余金期首残高	7,840	7,840
資本剰余金期末残高	7,840	7,840
(利益剰余金の部)		
利益剰余金期首残高	13,623	11,170
利益剰余金増加高	423	3,077
当期純利益	423	3,077
利益剰余金減少高	627	623
配当金	576	576
役員賞与金	51	47
利益剰余金期末残高	13,419	13,623

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

連結キャッシュ・フロー計算書 (要旨)

(単位：百万円)

科 目	当連結会計期間 平成15年4月1日から 平成16年3月31日まで	前連結会計期間 平成14年4月1日から 平成15年3月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	△ 588	10,822
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 6,111	△ 2,261
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 3,179	△ 1,912
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 89	△ 93
現金及び現金同等物の増減額	△ 9,968	6,554
現金及び現金同等物の期首残高	15,281	8,727
現金及び現金同等物の期末残高	5,312	15,281

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

単独決算概要

貸借対照表

(単位：百万円)

科 目	第74期末	第73期末	科 目	第74期末	第73期末
	平成16年3月31日現在	平成15年3月31日現在		平成16年3月31日現在	平成15年3月31日現在
資 産 の 部			負 債 の 部		
流動資産	34,840	42,470	流動負債	28,951	31,795
現金及び預金	3,401	10,327	支払手形	4,480	12,611
受取手形	584	616	買掛金	14,329	6,939
売掛金	18,721	20,348	短期借入金	1,600	1,600
有価証券	363	11	1年以内返済予定の長期借入金	1,747	2,034
原材料・貯蔵品	1,925	2,440	未払金	525	204
原材料・貯蔵品	1,168	1,170	未払法人税等	1,702	2,566
仕掛品	588	601	未払費用	2,139	2,345
前払金	1,466	1,558	製品保証引当金	510	618
未収入金	3,049	3,671	その他	1,916	2,876
関係会社短期貸付金	2,418	275	固定負債	12,338	12,675
繰延税金資産	1,177	1,244	長期借入金	2,627	4,374
その他	203	434	退職給付引当金	7,716	6,234
貸倒引当金	△ 228	△ 229	役員退任慰労引当金	217	289
固定資産	35,853	30,974	長期預り金	1,777	1,777
有形固定資産	19,455	18,670	負債合計	41,290	44,471
建物	5,264	5,379	資本の部		
構築物	313	362	資本金	8,929	8,929
機械及び装置	4,974	5,019	資本剰余金	7,393	7,393
車両運搬具	42	62	資本準備金	7,393	7,393
工具器具及び備品	1,598	1,610	利益剰余金	12,634	12,749
土地	4,287	4,287	利益準備金	1,543	1,543
建設仮勘定	2,973	1,948	配当引当積立金	600	600
無形固定資産	157	236	固定資産圧縮積立金	364	367
ソフトウェア	58	137	別途積立金	8,909	8,909
その他	99	99	当期末処分利益	1,216	1,329
投資その他の資産	16,239	12,067	その他有価証券評価差額金	456	△ 91
投資有価証券	8,680	5,393	自己株式	△ 9	△ 6
関係会社株式	3,777	3,413	資本合計	29,404	28,974
関係会社出資金	281	—	負債及び資本合計	70,694	73,445
長期貸付金	77	27			
繰延税金資産	2,663	2,535			
その他	767	773			
貸倒引当金	△ 7	△ 74			
資産合計	70,694	73,445			

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

損益計算書

(単位：百万円)

科 目	第74期	第73期
	平成15年4月1日から平成16年3月31日まで	平成14年4月1日から平成15年3月31日まで
売上	90,008	92,249
売上原価	80,105	80,962
営業利益	9,568	9,497
営業外収益	333	1,788
受取利息及び配当	1,340	1,636
固定資産貸与	163	112
その他の営業外収益	471	467
営業外費用	704	1,056
支払利息	705	855
固定資産貸与費用	96	109
その他の営業外費用	207	229
経常利益	401	516
特別利益	968	2,569
投資有価証券売却益	2,269	4,334
その他の特別利益	2,187	3,866
特別損失	82	468
子会社株式評価損	1,380	4,905
投資有価証券評価損	1,100	2,560
その他の特別損失	—	1,699
税引前当期純利益	280	645
法人税、住民税及び事業税	1,857	1,998
法人税等調整額	1,789	2,366
当期繰越利益	△ 438	△ 509
当期繰越利益	506	142
当期中間配当	997	1,475
当期末処分利益	287	288
	1,216	1,329

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

第74期利益処分

(単位：円)

科 目	金 額	
当期末処分利益		1,216,870,024
固定資産圧縮積立金取崩額		1,423,422
計		1,218,293,446
これを次のとおり処分いたします。		
株主配当金(1株につき3円)	287,975,403	
取締役賞与金	28,110,000	
監査役賞与金	5,890,000	321,975,403
次期繰越利益		896,318,043

(注1) 平成15年12月9日に287百万円(1株につき3円)の中間配当を実施しております。
(注2) 固定資産圧縮積立金取崩額は租税特別措置法に基づくものであり、税効果会計に基づく税額相当額を控除した数値で表示しております。
(注3) 自己株式45,050株については株主配当金より除いております。



多彩なモデルに、多彩なフォルムの安全性能を提供しています

それぞれのクルマのデザインに合わせ、常にベストの安全を提供し続けるICHIKOH。高度な配光設計シミュレーションや、製品の見栄えを忠実に再現する3Dシミュレーション等、その先進の開発技術と確かな品質は、国内・国外の自動車メーカーからの高い評価と信頼に表れています。ヘッドランプ、リアコンビネーションランプ、ドアミラー…。あなたのクルマにもきっとICHIKOHの製品が使われています。

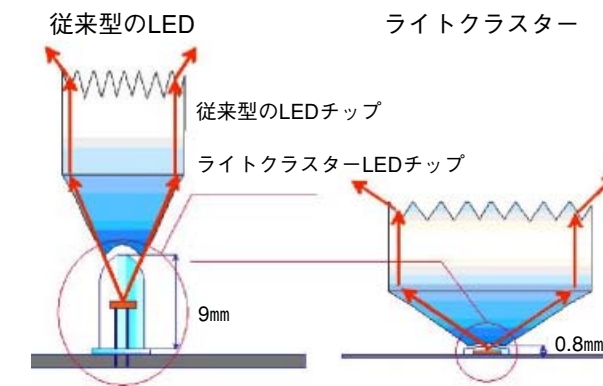
超薄型LED 『ライトクラスター』

トヨタ新型「クラウン」の自動車用照明として世界初採用

当社は、鳥取三洋電機株式会社と超薄型LED『ライトクラスター』を共同開発。トヨタ自動車株式会社の新型「クラウン」に自動車用照明として初めて搭載しました。『ライトクラスター』は、薄い基板にLEDチップを直接スポットニングすることにより、従来のLEDに比べ約1/10の超薄型でフレキシブルな基本構造を実現した、全く新しいLEDチップです。光の照射角が広く、従来のLEDと比較して斜め横方向からの視認性が大きく向上しています。また、チップ1つ当たりの重量も抑えられるためユニット全体の軽量化が図れます。今回、新型クラウンでライトクラスターを使用しているのは、リアコンビネーションランプのトランクリッドの繋ぎ目となる鉄板部分及びハイマウントストップランプ。特にトランクリッドの繋ぎ目部分は薄い鉄板であり、通常のLEDでは装着不可能なため薄型化が求められていました。『ライトクラスター』を採用することで、薄いトランクリッド部分の照射が途切れることなく、デザイン的にも高級車にふさわしい均一な配光を実現しています。

■『ライトクラスター』の特長

- 光の拡散に有効な広い照射角で、薄型設計を実現
広い照射角を生かし超薄型化が可能です。
- デザインや配光の自由度が飛躍的に向上
フレキシブルな基板を使えるため、三次曲面への利用もできます。
- 軽量化や省電力化に貢献
1つのチップ当たりの照射面積が大きく軽量なため、消費電力も節減できます。





早目の点灯で安全運転

欧米に比べ、日本のドライバーがランプを点灯する時間は遅すぎるといわれています。また、暗くなってもランプをつけないで走ると、運転がうまいと錯覚しているドライバーもいます。しかし、安全を考えるなら、できるだけ早くランプを点灯すべきです。少しでも暗くなったら、スモールランプを点灯し、自分から外の様子が変わりにくくなったら、迷わずにヘッドランプを点灯する。そうすれば、対向車や歩行者からあなたのクルマを認識させ、みずからも十分な視界が確保できることになります。

点灯時間の目安は薄暮時。トワイライトタイムともいわれる昼と夜の境目の時間です。一見、まだ昼間の明るさのようだからランプは必要ないと感じますが、実際は、それまでの明るさに比べて急速に明度もコントラストも落ちています。そのため、人間の目にとっては、とても厳しい条件となり、目の疲れも助長されます。極端に明るい色や暗い色はともかく、中間色が認識しにくくなる魔の時間帯。統計的にも、この時間帯の事故発生率が高いので、緊張感をもって運転したいものです。

また、ランプの点灯は夕方だけとは限りません。すでにオートバイでは、常時点灯が義務づけられているように、昼間でも周囲のクルマにこちらの存在をアピールしたいときや、急に曇ってきたときなどには積極的にランプを点灯して、危険は未然に防ぐようにしましょう。



Inner のマナー Mirror

防眩ミラーで目の疲労をやわらげる



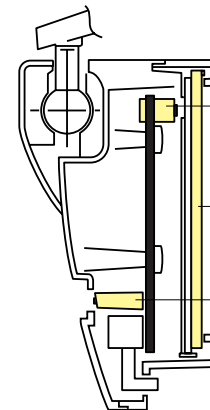
ヘッドライトの光軸がずれているクルマや、ライトの位置が高い大型車が後続車になると、ヘッドランプの強烈な光がルームミラーに直接当たり、ドライバーの目を直撃してしまいます。こうなると、眩しくて前方がよく見えなくなって危険なのはもちろん、この状態が長く続くと、運転をすることで普段より酷使している目を、より疲労させてしまいます。

防眩ミラーは、この眩しさを和らげる安全装備です。光を和らげる仕組みは、反射角度が異なった二重構造の鏡にあります。この鏡

の一方が光量を少なくするようになっていて、ルームミラーの下側に付けられたノブを操作することで、通常の反射面から防眩へと切り替わるのです。

ちなみに、防眩ミラーは、夜モードにしたとき、天井が見えるようにノブを押し込んだ状態でセットするのが正しい使い方。これは、いざというとき、押すよりも引いた方が素早く切り替えられるからです。また、自動的に調整するタイプもあります。下の図は当社の自動防眩ミラーの構造です。

■自動防眩ミラーの構造例



- 後方センサー
ミラーに入る光量を判断。受光量に応じてミラーの反射率を変えるようにゲルECに命令を出します。
- ゲルEC
後方センサーの指示に応じてミラーの反射率を調整します。
- 前方センサー
周囲の明るさ（昼・夜または光の強弱）を判断。例えば、夜と判断した場合、後方センサーに作動信号を送ります。

株式の状況 (平成16年3月31日現在)

株式の総数及び資本金

資本金 8,929,538,428円

発行済株式の総数 96,036,851株

授権株数 200,000,000株

株式の異動

名義書換件数 185件

名義書換株式数 5,590,258株

期末株主数 10,471名

大株主 (上位10名)

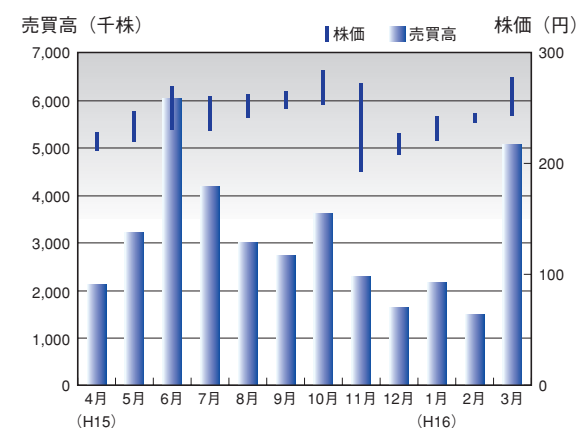
株主名	持株数	議決権個数	議決権比率
ヴァレオ・バイエン	20,755 千株	20,755 個	21.73 %
トヨタ自動車株式会社	5,869	5,869	6.14
株式会社みずほコーポレート銀行	4,775	4,775	4.99
日本マスタートラスト信託銀行株式会社	2,914	2,914	3.05
株式会社あおぞら銀行	2,909	2,909	3.05
ダイハツ工業株式会社	2,712	2,712	2.84
株式会社UFJ銀行	2,068	2,068	2.17
日本生命保険相互会社	1,918	1,918	2.01
みずほ信託銀行株式会社	1,913	1,913	2.00
UFJ信託銀行株式会社	1,756	1,756	1.84

(注1) 持株数は、千株未満を切り捨てて表示しております。

(注2) 当社は株式会社みずほコーポレート銀行及び株式会社みずほ銀行の持株会社である株式会社みずほフィナンシャルグループの普通株式1,436.58株 (議決権比率0.01%) を保有しております。

(注3) 上記の持株数のうち、信託業務に係る株式数は次のとおりであります。
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 2,914千株

株価及び株式売買高の推移



会社概要 (平成16年3月31日現在)

商号 市光工業株式会社

設立 昭和14年12月20日

事業所

本社	〒141-8627 東京都品川区東五反田5-10-18 TEL 03 (3443) 7281
テクニカルセンター	〒259-1192 神奈川県伊勢原市板戸80 TEL 0463 (96) 1488
伊勢原製造所	〒259-1192 神奈川県伊勢原市板戸80 TEL 0463 (96) 1451
大泉製造所	〒370-0523 群馬県邑楽郡大泉町吉田1216-1 TEL 0276 (63) 2271
藤岡製造所	〒375-8508 群馬県藤岡市東平井1467 TEL 0274 (23) 2211
中津川製造所	〒509-9132 岐阜県中津川市茄子川1646-37 TEL 0573 (68) 6615
ミラー製造所	〒375-8507 群馬県藤岡市藤岡1360 TEL 0274 (23) 2121
中部支店	〒465-0025 愛知県名古屋市名東区上社3-2112-2 TEL 052 (709) 2011
AM札幌センター	〒005-0036 北海道札幌市南区南36条西11-2-13 TEL 011 (581) 2166
大泉営業所	〒370-0523 群馬県邑楽郡大泉町吉田1216-1 TEL 0276 (63) 0760
大阪営業所	〒564-0052 大阪府吹田市広芝町15-39 TEL 06 (6384) 6551
広島営業所	〒732-0053 広島県広島市東区若草町3-20 TEL 082 (261) 2208
九州営業所	〒802-0003 福岡県北九州市小倉北区米町1-3-1 TEL 093 (522) 5711

取締役及び監査役

代表取締役社長	市川 侑 男
専務取締役	寺田 勝 彦
専務取締役	大雲 直 哉
専務取締役	青木 俊 朗
専務取締役	磯部 孝 征
常務取締役	梶谷 達 雄
常務取締役	東出 洋 治
取締役	津崎 栄 二
取締役	中野 孝 雄
取締役	山本 政 美
取締役	二川 幸 司
取締役	須賀 進
取締役	大坪 千 二
取締役	安藤 信 雄
取締役	小宮山 文 夫
取締役	ティエリー・ドゥリュ
常勤監査役	手塚 昭 佳
常勤監査役	伊藤 博 之
監査役	大沼 淳
監査役	鹿島 芳 久

従業員数

連結	3,689名
単独	2,155名